

# 新山協ニュース

▲ 発行者 平田大六

▲ 発行所 新潟県山岳協会

〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

## 第6回北信越高体連登山大会

北信越高体連登山大会事務局

半谷高紀

今大会は、第1回大会が、新潟県の火打山で行なわれて以来の2巡目の大会となりました。今大会は、県内最高峰の小蓮華岳を会場に蓮華温泉をベースにして、初夏の北アルプスを満喫してもらおうと計画しました。

北信越高体連登山大会は、6月の第3土日曜日と決まっているために常に雨を心配している大会です。過去も3日間の日程すべて晴天という大会はありませんでした。今回は、せ

めて行動日だけでも願っていました。6月17日(金)、北信越5県、県内男女8校、他1県当たり男女4校、計24校、選手96名と監督、役員あわせて150名の大会になりました。梅雨には珍しい好天下での開会式が、水芭蕉が咲き乱れ、そして緑あざやかな蓮華温泉キャンプ場で行なわれました。選手は開会式後ただちに審査に入り、設営に、天気図に、生活技術にと緊張の中に汗を流していました。

開会式が行なわれている頃、ルート工作隊の生徒6人と教員4人は、昼前から白馬大池までの間の雪溪でのルート工作に汗を流していました。事前調査時に比べれば、範囲がせまくなりましたが、それでも2ヶ所、フィックス工作やバケツ掘りと大会の安全確保のために頑張っていました。

明日の好天を願いつつ、選手、役員共に静かに就寝しました。6月18日(土)、天候は、高く



もり、薄日のさす登山びよりの朝を迎えました。全隊6時に予定どおり出発。本部に入ってくる無線は、全員落伍なく天狗の庭を通過、ルート工作された雪溪も全パーティー安全に通過。予定より早めに白馬大池に到着、きんぼうげの咲くお花畑、残雪が解けはじめた大池が、雪溪の残っている雷鳥坂が私たちを迎えてくれました。

小蓮華にむかって、稜線に出ると、遠く槍ヶ岳から、後立山連峰、立山・剣岳のすばらしい展望を見せてくれました。全員が山頂に立つと、眼前には、白馬岳と360度の展望を私たちにくれました。この時期の北アルプスは、め

ったにない経験で、選手諸君は大満足な一日を過ごした。夜になって、交流会が始まる頃から、雨が降り始め、やはり全日程晴天はだめだったのかとがっかりしたが、小やみになった中での交流会は、小千谷高校の佐藤さん、新潟高校の中村君の司会で盛りあがり成功でした。

6月19日(日)、朝から雨でした。当初計画した自然観察コースの兵馬の平は中止をし、

時間を繰りあげて、蓮華温泉の大広間にて、新潟気象協会の渡辺通氏による、天気図、天気についてでした。今時の雨については、気象協会も読めなかったようでした。山における天候は、極地気象になり、予想が困難だったようです。



めジャージでの参加が多くなっています。天候急変とくに北アルプスなど考えたらどうなのかという議論があったということでした。高校生の登山ということ、私たちは、指導も含めて、安全面から考えて、色々なことを検討していく必要があることに気がついた大会でした。

### 登山技術講習会

(岩登り)

今成 幸夫

平成6年6月12日は快晴で、昨夜からの参加者と、早朝からの参加者が次々と集まってきました。

予定通り7時過ぎから開会式を行い、班分け後、杉滝岩のゲレンデにて、基本技術から応用技術まで、各班講師の熱心な指導が行なわれた。

岩登りの技術や用具の開発が進む中で、特にフリークライミング技術の進歩は目ざましく、従来ではとても登れなかった岩が登られ、気軽に岩登りを楽しめる時代になっているが、岩登り技術の在り方は基礎技術、応用技術と段階

的な過程を踏んで、修得されるべき性質のものであり、基礎技術を無視していきなり応用技術を身に付けることは危険である。基礎技術を大切に、遭難事故をなくし、気軽に岩登りを楽しんでもらいたい。

反省として、時間の都合で

### 補助員としての県総体

新潟工業高校土木科3年

篠沢 巧

会場 守門岳  
期日 6月1日～3日

ぼくは補助員として守門岳に出かけたが、それは決して楽なものではなかった。

初日、補助員達は先生方の車なので、わが校のメンバーより30分以上も遅く出発。小出駅での受付を先生と1年生にまかせ、受付作業が終わった後食堂で昼食。やがて、バス乗車時間になり選手はバスに乗り込み出発するが、我々は再び先生の車で大白川へ向かう。

大原スキー場の駐車場に着いて、選手は開会式のためバスを降りたが、補助員はすぐ

制動確保と脱出技術の講習が出来なかった事は残念であった。また講習会の参加者が新潟、下越地区に集中し、他の地区からの参加者が少なかつた事は、今後の課題として検討しなければならない点であると思う。

に大原スキー場に向かい幕営地の割り振り、トイレにシートを敷いて、審査委員用や本部、そして自分たちのテントの幕営を始める。作業をやっている途中に開会式を終えた選手が登ってきて、ペーパーテストなどをやっていた。

我々はテントの設営で役目も終わったので、選手のペーパーテストが終わる幕営にはいるまで、作業が終わってから小1時間も雑談し、夕食。今回の荷物のほとんどは先生の車に乗せてきたため、食料はやや多めであった。

今までに例をみないほどうまくできあがったカレーを、3人の補助メンバーと食べた。

(先生方は会議でいなかった)でもらったが、カタクリは憶審查をされるのに比べて、楽すぎてバチが当たるのでないかと思いつながら、シユラフに入る。

2日目、少々寝過ぎたかもしれない。10分ほど遅れて起床。急いで朝食を食べ、全部のテントの撤収をすませ、サブザックのバックキングを確認する。撤収が終わる頃参加選手のほとんどは幕営地にいなかった。「もう少し寝てても良かったかもしれない」と思いつつ、幕営地の後始末を終え、先生の車に乗り込む。

登山道の入口には最後尾のメンバーが集まっていた。我々だけが車でここまで来たことに、少々心が痛む。ここでトイレの後始末をしてこなかった事に気付く。深く反省しながら、今頃それをしているであろう、和田先生に感謝。

登山道にはいると遅すぎるペースで、少々戸惑った。登山道は最初から急な登りだったが、ペースが遅いのでなんなく登れた。前の班はどこまでいったんだろう、とか思いながら進んでいくと、花が目立ってくる事に気付く。いろんな花の名前を先生から教え

てもらったが、カタクリは憶えているが、他はほとんど忘れてしまった。こらへんに記録の中途半端さを感じる。最初から楽な山行だと思っていたので、気を抜きすぎたらしい。

具合の悪い人がいるたびに止まって様子を見たり、歩いてもそのペースに合わせ、ゆっくりと最後尾を進む。そのせいか、たいして疲れないうちに小鳥帽子に着くと、雪がたくさん残っていて、雪上歩行の審査をやっているため長い休憩になった。やっと女子が発するようなので我々も出発したが、1年生が初めての雪上歩行で滑ってばかりいるので急遽増田先生が講習をやるというハプニングがあった。雪溪を登ったら、守門岳山頂が見え、そこまではゆるい登りみたいなので、気が楽になった。だから守門山頂の登りでは女子のバテた人のザックは余裕で持って登れたし、1年生も山頂から男子のザックを持ったので余裕があったようだ。守門岳山頂を少し進んだ青雲岳で昼食。

ここまでは良かった。長い昼食を終え、少し歩く



と無線で大岳のあたりで足をひねった人がいる、と伝えられた。遅れている学校があるので増田先生に最後尾を託してペースをあげ、大岳をめざす。急な下りを終えアミハリに着くと再び無線。足をひねったという人は、処置をしてもらって先に行ったらしい。溜息をついて増田先生を待とうかと思つたが、又無線で、今度は鼻血を出した人がいるらしい。ほとんど小走りに近い状態で大岳を越え、その人を保健の江川先生が見ている間、我々は休憩することができたが、遅れている最後尾を待ってなければならず、思わぬほど長い休憩になった。眠くなった頃やっと出発になった。

こんな騒動で大岳の下りは少し疲れた足どりで、雪解け水でぐちゃぐちゃになった所を避けながらどんどん降りていく。キビタキ避難小屋で小休止をとり、先生方に山菜を教えてもらうが、あまり無いようだった。小屋から下は雪もないので道も乾いて快適になったが、暑さが気になりだした。道は途中から階段になり、トントンと降りていくと、

広場に出て、保久礼小屋に着いた。小屋の隣のトイレは新しく快適そうに見えたが、中は余りきれいななかった。流れる量は余り多くなかったが、水があったので飲んだが、やはりポリタンでずうっと揺すられた水より、ずっと冷たくうまかった。

ここを出発して少し登っていくと輔装された道路に出た。ここからが、又くせ者であった。1年生で同じ補助組の沢田君は、数種の山菜を採りながら嬉しそうに歩いている。が、それも数十分の間だけだった。長い、長いアスファルト道を、のろのろ進む。回りの景色なぞほとんど憶えていない。遙か彼方、後方で先生達が歩いているのだろうか。もう見えない。そろそろ精神的にも限界が見え始めた、と感じてきた頃、やっと山荘が見える。あまりの嬉しさに皆走り出してしまった。

もつと嬉しいことに、補助組にはなんと、ジュースが与えられた。このときばかりは補助組になったことを、心の底から喜んだ。少し休んで、幕営と夕食の準備。今日は審査委員のテントを張らなくて良いので、疲れた身には助かった。道院山荘のキャンプ場は池の畔にあり、水場もテント場もきれいなようだった。我々は山荘の脇にテントを張ったが、快適だった。そして、この日の夕食はとておいしかった。

3日目、もはや何も書く事はない。池の周りを回って一本松峠へ少し登った後は、下りだけだったし、藪の中に入っていた顧問の先生が何人かいたが、我々はゆっくりと最後尾を下る。少し雨が降ったが、すぐにやんだ。予定より早く着いたので、長い休憩の後に閉会式。もう補助組のやる仕事はなかった。閉会式が終わった後、選手に乗ったバスを見送った後、会場の掃除をやつて、我々補助組は守門岳を後にした。

全体を振り返ってみると、我々は補助という立場にありながら、ただそれを利用し兼ね山登りをしたにすぎない、という感じがある。ほとんど最後尾を歩いたので選手達のことはよく知らないが、我々が後からみる限りで、先生から大会で引き返すチームもあると聞いたのに、全部のチームが予定通りだったので、良かったのではないかと思う。

守門岳はまだ雪も多く残っていたが、コースにも、植物にも恵まれ、とても良い山だった。1年生はもちろん、今年卒業(予定)の僕にとっても、とてもためになったといえるだろう。機会があれば又行きたいと思う。今度はもう少し、気を引きしめて。

総体県予選大会について

高体連の大会の中で、競技という形で審査し、全国大会につながるのこの大会だけである。審査の方法は国体のそれとは全く違うが、この大会では長岡工業高校の新保先生が審査委員長をやられたので、この件に関しては新保先生から紹介していただいた方がよいと思うので、ここでは大会運営の面のみとします。

最初に、大会運営に関して快くご協力いただいた各方面の方々に、心より感謝とお礼を申し上げます。幕営地やトイレに関したことから道路の除雪など、大会運営に直接関わる部分から目に見えない部分まで、多岐にわたりお世話になりました。

大会の3日間はほとんど晴天に恵まれた事もありましたが、大した怪我人もなく、落後者を出さずに予定をこなせたのも、運営に協力いただいた大会役員の先生方のおかげです。特に忘れてならないのは、下回り役という裏方の仕事を引き受けていただいた新潟東工業高校の安野先生には感謝申し上げます。大会をスムーズに運営できたのも、先生のおかげです。

大会については、生徒の拙いですが、文を読んでいただき、参加人数と、結果を報告します。

1. 大会参加人数
  - 参加校 男子31校、エントリー26校、オープン5校
  - 女子8校、エントリー7校
  - オープン1校
  - 参加人数 男子118名
  - 女子31名、
2. 審査結果
  - 顧問・大会役員 55名
  - 男子 最優秀校 三条工業
  - 優秀校 三条東・六日町・加茂・新潟・長岡工業・糸魚川・長岡
  - 女子 最優秀校 新潟中央
  - 優秀校 小千谷・六日町・三条東・巻



上位大会出場

全国大会(富山県)

男子 三条工業・三条東

女子 新潟中央

北信越大会(新潟県)

男子 六日町・加茂・新潟

長岡工業

女子 小千谷・六日町

三条東・巻

82歳、

今年も北岳へ

北岳診療所の医師

小林太刀夫さん

キタダケソウ、キンロバイ、

ハクサンイチゲ……。北岳の

夏は、これら高山植物の開花

とともにやってくる。そして

もう一つ、夏の北岳には昭和

大北岳診療所も欠かせない。

この診療所の「顔」が東京

都渋谷区神宮前2ノ30ノ22、

小林太刀夫さん82。今年で開

設16年目を迎える診療所に毎

夏詰め、登山者の健康と安全

を見守り続ける「北岳のお医

者さん」だ。

同診療所の開設は1978

年だった。「広河原へのバス

乗り時に病人やケガ人が増え

てしまった。このままではど

うにもならない」という話を

耳にした小林さんが奔走した

結果だった。

開設当所は週末のたびに、

渋谷の自宅から診療所へ通う

こともあったという。現在は

昭和の大北岳診療所を中心とし

た10班集体で診療に当たって

いるが、それでも診療所に詰

める日数は小林さんが一番多

い。

「責任感で行っているだけ。

診療所をつくった者として運

営がうまくいっていないので

は困る」と言うが「診療は天

命。毎年の楽しみでもある」と

とも話す。

北岳の魅力も小林さんを診

療所に駆り立てているようだ。

「キタダケソウなど高山植物

の宝庫。特に、北岳山荘付近

の霧囲気が気に入っている。

朝、目が覚めてドアを開ける

と、正面に富士山が飛び込ん

でくる。日本で一番目に高い

山から一番の山を眺められる、

こんないい所はない」と話す。

15年間で診た患者は数え切

れない。「雨が降る夜に心不

全の患者をふもとまで下ろし

た」「食料も持たずに一気に

登り、八本歯(のころ)での

びてしまった人がいた」「同

じく八本歯で脱水症状になっ

た人がいて、夜中に迎

えに行ったこともあつ

た」などと振り返る。

最近の北岳は、中高

年の登山者や家族連れ

が増えたという。30ノ

50歳代の女性のグルー

プも目立つそうだ。広

河原へのバス乗り入れ

で確かに乗りやすくな

った」と分析するが、

「途中に険しい道があ

る北岳を富士山と同じ

つもりで登ると痛い目

に遭う」とくぎも刺す。

北岳に限らず登山に

当たっては「マイベ

スを守って、普段から

体を慣らしておくが必要」

と、小林さんは力説する。

このほか①事前にメディカ

ル・チェックを受ける②登山

前は酒を飲み過ぎない③登山

中は適度に水分をとる。な

どを訴える。

実際、小林さんも「マイベ

スを守る」などを心掛けて

いることから、80歳を超えた

今でも年間40ノ50の山に登

ることができるといふ。標高2

900m付近の同診療所へも

自分の足で登る。「診療所へ

行く前には富士山で足慣らし

をしておく」と話す。

### 第33回 全日本登山体育大会案内

期日 平成6年9月23日(金)~25日(日)

会場 立山(3,015m)、大日岳(2,606m)、剱岳(2,998m)

日程 平成6年9月23日(金) 9:00~10:00 受付  
 10:30~11:30 開会式 12:00~14:00 移動 14:00~ 各山小屋へ  
 24日(土) 登山行動 A・B・Cコース  
 25日(日) 8:30~10:00 閉会式、解散

テーマ 「大自然と歴史道にロマンを求めて」

登山行動

日	Aコース(立山)	Bコース(大日岳)	Cコース(剱岳)
9/23	室堂発 室堂山荘(泊)	室堂発 雷鳥荘(泊)	室堂発 剱沢小屋(泊)
9/24	室堂発 ~ 一ノ越 ~ 雄山 ~ 別山 ~ 別山乗越 ~ 雷 鳥沢 ~ 室堂着 ~ 室堂発 ~ 千寿ヶ原 称名荘(泊)	雷鳥荘発 ~ 室堂 乗越 ~ 奥大日岳 ~ 大日小屋 ~ 大日平 ~ 称名滝 ~ 称名平発 ~ 千寿ヶ原 称名荘 (泊)	剱沢小屋発 ~ 一服 剱 ~ 前剱 ~ 平蔵 のころ ~ 剱岳 ~ 別山乗越 ~ 室堂着 ~ 室堂発 ~ 千寿 ヶ原 称名荘(泊)

参加人数 200名 Aコース(立山縦走)100名  
 Bコース(大日岳縦走)50名 Cコース(剱岳登頂)50名

参加申込 協会事務局まで連絡下さい(五十嵐 昇 ☎0254-23-2958)

参加費 各コース 23,000円  
 上記参加費は、宿泊費、食費(9月23日夕食より、9月25日朝食までの5食分)、千寿ヶ原~室堂往復、称名平~千寿ヶ原の輸送費を含む。

**登山用品専門店**

— 信頼できるパートナー —

**大新スポーツ**

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736